

アンケート調査結果報告書（一般） について

- ▶ 調査期間：令和 8 (2026) 年 5 ～ 6 月
- ▶ 配布数：500 件
- ▶ 有効回答数：202 件
- ▶ 回答率：40.4% (47.2%)

※（ ）は平成28年第4次富田林市障がい者計画アンケート数値

調査結果①

障がいのある人との関わりは若い世代が多くなっている。

- ▶ 身近に障がいのある人がいる 43.1% (43.2%)

内訳

- ▶ 学校での交流経験 37.1%
※若い世代では学校での交流経験が53.7%
- ▶ 社会に出てからの交流経験 33.7%

【ポイント】

- ▶ 若い世代ほど障がいのある人との接点が増えている。
- ▶ 一方、高齢世代では交流経験のない人も多い。 39.1%

調査結果②

障がいのある人の社会参加への理解は定着、環境整備も少しずつであるが進んでいる

- ▶ 「障がいの種類や程度に応じて社会参加すべき」 75.2% (80.5%)
- ▶ 「障がいのある人も社会の一員であり一緒に仕事をすべき」 50.5% (49.6%)

一方で

- ▶ 「自立して生活するには制度や設備が整っていない」 51.0% (56.8%)
- ▶ 「障がいのある人の働く場が少ない」 32.2% (39.0%)

【ポイント】

- ▶ 理念への賛同は高いが、現実の環境整備には課題を感じている。

調査結果③

将来への不安が大きい

- ▶ 「自分が障がいのある状態になったら暮らしづらいと思う」63.4%（84.7%）
- ▶ 65歳以上では78.3%と高い値

【ポイント】

- ▶ 改善されつつはあるが市民は『障がいがあっても安心して暮らせる地域』とまでは感じていない。
- ▶ 地域生活を支える仕組みづくりが必要。

調査結果④

障がい児支援の充実を求める 声が高い

- ▶ ①子どもの成長・発達について継続して相談できる専門的な相談機関 77.7% (77.1%)
- ▶ ②子どもの障がいに応じた適切な支援を行える療育機関 70.3% (71.6%)
- ▶ ③子どもの成長・発育の確認や病気の早期発見のための専門的な検診機関 65.3% (67.4%)
- ▶ ④子育ての悩みについて身近に相談できる場 63.9% (64.0%)

【ポイント】

- ▶ 引き続き相談支援・療育支援・医療支援の充実が望まれている。

調査結果⑤

制度や計画の認知度は低い

- ▶ 高次脳機能障がい 33.7%
- ▶ 合理的配慮 21.3%
- ▶ 障害者虐待防止法 19.3% (14.0%)
- ▶ 障害者差別解消法 16.3% (10.6%)
- ▶ 障がい者週間 10.4% (6.4%)
- ▶ 障がい者計画 5.0% (3.8%)
- ▶ 障がい福祉計画・障がい児福祉計画 4.5% (3.8%)

※高次脳機能障がい・合理的配慮 は前回質問なし

【ポイント】

- ▶ 障がい理解や権利擁護に関する啓発が今後必要。

市民が重点的に進めるべきと考える施策

- ▶ ①障がいの程度や障がいの種別に応じた教育の充実
62.9% (41.9%)
- ▶ ②建築物の改善・整備等、障がいのある人の利用を前提とした暮らしやすいまちづくり 58.4% (41.9%)
- ▶ ③雇用・就労の場の確保 55.4% (37.7%)
- ▶ ④障がいのある人への理解を深めるための福祉教育
50.5% (28.0%)
- ▶ ⑤相談できる環境の充実 46.5%

※相談できる環境の充実は前回質問なし

【ポイント】

- ▶ 教育・就労・相談・バリアフリーが市民ニーズの中心。